



Vine Linux 5.0 における日本語 T_EX 環境の特徴 ——利用者・現場・開発者の情報共有——

山本 宗宏 (Project Vine)
<munepi@vinelinux.org>

produced by Project Vine and exciting guys

約3年ぶりのメジャーアップグレードとなる Vine Linux 5.0 における日本語 T_EX 環境は、各種 T_EX 関連ソフトウェアを更新しているだけでなく、利用者・現場・開発者の皆様からいただいた多くのフィードバックや要望を反映しています。

Vine Linux 5.0 になって何が新しくなったのか？ を中心に、以下の3点について紹介します。

apt-get install task-tetex

task-tetex パッケージをインストールすれば T_EX 環境が一通り整うのは、Vine Linux 5.0 になっても継承されています。task-tetex パッケージと同時にインストールされる、一新された tetex-macros パッケージについて説明します。

updmap とモリサワフォント

事実上、出版・印刷業界で標準であるモリサワフォントをフォントマップ一元管理機構 updmap で利用するには、map の作成に一工夫が必要です。Vine Linux 5.0 ではその一工夫に対する一つの解を用意しました。

tetex-tt2001-fmex789 と tetex-bakoma-cmex789

tt2001/fmex{7,8,9}.pfb のグリフ/space (0x0020) に割り当てられている大きな左パーレンが、一部の環境において pdf プレビューまたは出力で欠落してしまう問題があります。この問題に対して、Vine Linux 5.0 では安全な出力のために tetex-tt2001-fmex789 と tetex-bakoma-cmex789 (non-free) パッケージを用意しました。

また、Adobe Distiller 7 および Adobe Distiller 8 を用いて、この問題が再現するソースから作成した pdf の検証結果も併せて示します。